

6、73、0

（包紙）

「大谷九右衛門殿 高浜達右衛門」

6、73、1

御別紙是又忝致拝見候

御申越之通り先達^{而者}誠^ニ

急成御道中殊^ニ滞留も聊

之間^{ニ而}染々御懇酒等^ニも御案

内も不致心外之残念之次第

御仁免可被下候、殊^ニ其節^者

御器筆之品御贈申候所御厚

礼御書面甚恥入申候、扱また

其御地私出立之砌^{ニ者}御持病

^{ニ而}御難儀之由如何哉^{卜者}存居

申候得共又々其節も俄之

出立^{ニ而}御見舞等も不申実々

自是社^者苦々敷次第

是又御免察可被下候、右御礼

御断等乍序御見舞旁如此

御座候、猶期後音候、恐惶謹言

高浜達右衛門

八月廿四日 正之（花押）

大谷九右衛門様

猶以乍末筆御家内様不残

御一流方へも宜敷御厚礼并

御見舞等乍憚御伝聞御願申候

且又忝儀も同様御懇志是又

御頼申置候、以上